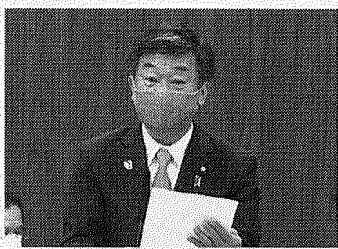


川辺川はスピード感もって

赤羽大臣が足立議員質問で表明

参院国交委



自民党の足立敏之議員
II写真IIは、26日の参議院国土交通委員会、赤羽一嘉大臣に熊本県の川辺川への流水型ダム建設について質問した。

川辺川に建設予定だった貯留型ダムの中止が長年続いてきた状況下、今年7月の豪雨で球磨川が氾濫し65人が死亡、2人が行方不明になったことを受け、熊本県の蒲島郁夫知事は流域すべての市町村で話を聞いた結果、新たな決断を今月19日の県議会で表明。事業を流水型のダムに変更し、緊急治水対策プロジェクトの一環として実施すると表明している。

足立議員はこの表明を評価した上で、今後さらに地球温暖化に伴う水害が激甚化することを考えると、川辺川へのダム建設など一様な対策を急ぐべきだと考える。赤羽国土交通大臣の見解を伺いたい」と質問した。これに赤羽大臣も、知事の最終判断で環境と災害に強い「緑の流域治水」として新たな流水型ダムを選択したことを「尊重したい」と返答。今後、

環境影響評価や設計の変更などが必要になるため、「時間をかけずにスピード感を持って行う」ことや、同時に道路や鉄道、観光などの生業・住まいの再生も含め、再度災害を防止し、地域の方が安全で安心に暮らせるような総合的な「地域の再生」にしっかりと取り組む考えを表明した。

また足立議員は、今年度で終了する「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の後継策についても質問。政府・与党では、5か年に延長し必要十分な額を当初予算へ別枠で計上する方向で「一致していると聞いている」とした上で、今後このように取り組むのか赤羽大臣に問うた。これに赤羽大臣は、流域治水をはじめとする国土強靱化を進めるための「中長期的な予算が重要」と述べ、その確保に向けて「全力を尽くす」考えを示した。